

一北の子

豊かな心をもった、たくましい子

<よく考える子・助け合う子・進んでやる子>



大和第一北小学校
学校だより No. 9
平成30年12月21日

『宝曆みそ』づくりの学習を通して、万場の人々とくらしに関心を高める子どもたち

12月の月上旬、2年生が畑中商店（畑中雅喜さん）を訪問し、みそづくりの体験学習をおこないました。講師は、畑中美里さん、平野達也さん、平野雄太さん、大井希世美さんの4名でした。まずは3日の午前中に大豆を煮る作業を見学しました。100kgの大豆を3時間かけて煮るそうです。子どもたちは、煮上がった大豆を2粒ずつ食べさせていただきました。それだけでもとってもおいしい大豆でした。煮た大豆を冷ましたその日の午後に再び作業場を訪問し、大豆、炒った大麦、麴菌を混ぜ合わせる作業を体験させていただきました。この日は、大豆が100kg、炒った大麦が40kg、麴菌が100gで、それらをしっかりと混ぜ合わせました。次に木製の箱に混ぜ合わせたものを広げて入れ、室（ムロ）と呼ばれる部屋で3～4日発酵させ、「みそ麴（こうじ）」を作ります。5日後の12月7日、みそ麴を学校に持ってきていた



だき、小さな桶に仕込む作業を行いました。仕込んだみそは、家庭科準備室の棚の中でねかせ、来年3月までの間に、数回混ぜる作業を行います。さらに6月には「天返し」という作業を行い、その後、またじっくりとねかせます。そうして少しずつ味噌になっていくのを待ちます。宝曆みそができ上がるのは、来年の11月の予定です。

80歳以上の高齢者宅を訪問する活動で、地域に主体的に関わる子どもたち

5年生が取り組んでいる「田んぼの学校」（稲葉瀧雄校長）では、今年は約43kgのお米を収穫することができました。それを宝の発表会で販売したところ、17,800円の売り上げがありました。その売り上げでシクラメンの鉢植えを購入し、12月11日の午後、5・6年生が上・中・下万場に分かれて80歳以上の高齢者（小学生がいない方）のお宅を訪問し、シクラメンに手作りクリスマスカードを添えてプレゼントしました。民生委員の三島信一さん、山田敬子さん、前民生委員の畑中美里さんに案内していただき



ました。町探検やみそづくり、田んぼの学校、蛍の学校など、地域の方にお世話になることが多い学校ですが、子どもたちが積極的に地域に貢献することはほとんどありません。この活動は、子どもたちが主体的に地域に関わっていく貴重な福祉活動です。

ノート展で、仲間のよさを学び合う

12月3日から7日の1週間、ノート展を開催しました。ノート展に向けて、自分の書く力や学習内容をまとめる力を高め、ノート展では、お互いのノートを見合っ、ノートの使い方や書き方、まとめ方の工夫など、仲間のよいところを学び合いました。友だちのよさを、これからの自分の学習に生かしていく機会となりました。



郡上かるた大会に出場した一北小のすべてのチームが2次予選に進出 !!

恒例となった郡上市かるた大会は、今年で7回目を迎え、193チームが出場し、やまと総合センターで盛大に開催されました。年々参加者が増えていますが、会場設営やスタッフの人数に限りがあり、かるた大会実行委員会の方々は、申し込んだ人全員が納得できるような開催方法を試行錯誤しています。今年も、1次予選、敗者復活戦、2次予選、決勝トーナメントという試合形式を取り、申し込みをした全てのチームが最低2試合はできるような対戦方法を考案し、実施されました。



本校からは、大中笑さん、山田佳凜さん、藤原寧叶さん、井上尊仁さん、籾友衣菜さん、三輪晁生さん、井上万緒さん、早川乃音さん、中山耕輔さん、大中惟央さん、三島陽菜さん、大中望央さん、三輪倫士さん、桑田健太郎さん、和田怜也さん、本多珠々奈さんの16名が参加しましたが、全員が1次予選を突破し、2次予選に進出することができました。おかげで最低でも4試合、決勝トーナメントに進出したチームは6試合も対戦することができました。古田文代先生や上野舞先生と共に約1ヶ月間、業間休みや昼休みに練習を積み重ねてきた成果です。

資源回収へのご協力、ありがとうございます

みなさんのご協力により、7月に資源回収用の倉庫を設置した後、7・8月は3,640円、9月は4,040円、10月は4,710円、11月は4,020円と、着実に収益をあげています。年度の途中から始めたので目標額には届きそうにありませんが、昨年度より大幅に収益を伸ばすことができそうです。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

